

# 1月の果実の見通し

平成29年12月21日現在

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
みかん類		15,335	かなり少ない	14,942	266	136%	252	-	-	12月から続く品薄感により、みかん類の価格は高止まり状態。絶対量不足から年末にかけても引き合いの強い状態が継続された。年明け1月からは静岡県産「青島温州」中心に長崎・愛媛産の出回りとなるが、年内に前倒し気味に出荷してきたことや、裏年にあたる静岡産が大幅に少ないこともあり、1月も高値は継続。荷動きは停滞するが、それ以上に数量が不足するので引き合いは強いまま。
りんご		5,698	やや少ない	5,774	312	94%	285	87	1.5%	青森県産の貯蔵品中心の販売。主力となる「ふじ」は小玉果が多く、市場価格は前年を下回る状況が続いているが、食味も良く内容を評価する声も多い。本年は旧正月が遅く、1月に入ってから輸出が本格始動するために1月の国内向け出荷量は減りこむことが予想される。果実類全体が高い中ではあるが、小玉の袋詰めなどは比較的販売しやすい商材であり、積極的な売り込みが期待される。
いちご類		3,778	やや多い	3,696	1,458	100%	1,368	-	-	関東地方の12月の天候は晴天続きとなっている。日照時間はあったものの低温であったために生育が遅れ、12月中～下旬は供給量が不足で引き合い強まった。九州地方の産地も曇天続きで出荷数量は伸びなかった、年明けは一時的には増えるものの、1果房と2果房の切り替え時に若干ではあるが出荷の谷が出来そうである。その後の出荷はダラダラとした流れで2月に入っていく。
干し柿		366	前年並	311	1,443	89%	1,617	3	0.8%	本年度のほし柿は全国的に収穫前の台風の影響によって原料柿の品質が下がった。そのため皮むき作業に入ったときに上手に皮がむける柿がなく、原料不足となってほし柿全体に年内は前年を下回る出荷量となった。年明けの出荷も少なく推移し、早期出荷終了になる産地も出てくるが、そのなかにあっても福島産は前年並みの出荷量を見込んでいる。